

## 恩師・末永弘海先生召天 50 年を記念して(4)

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

### 末永弘海牧師の生涯の姿勢

#### 4. イエス・キリストを主と崇め、栄光を主に帰する生涯

活水学院解散後、バックストーン師の許で修行したく思い、一切の手続きを完了し、出発を待っておられたが、山手教会にて修行されるように導かれた時、みことばが与えられ、その導きに従われた（ヘブル 12 章 2 節、コロサイ 2 章 3 節）。また牧会 30 年の感謝会の時には一切の栄光を主に帰しておられた（詩篇 115 篇 1 節）。その姿勢は生涯変わられなかった。献身者との日々の打ち合わせの時にも同じ姿勢であられた。

**5. 神癒の信仰** 結婚 3 年目に急性肺炎から湿生肋膜炎を発病された。1966 年血尿があり、9 月に精密検査の結果、骨癌の宣言を受けられる。1956 年郁師が直腸癌で召天される。マタイ 8 章 17 節、魂が罪から贖われていると共に肉体も贖われている。律法的神癒信仰の誤りに気付き、医療を受ける自由を認められる。

**6. 聖書通読会と聖書熟読** 教会員全員が聖書に親しむ手助けに「聖書通読会」を発足され、「朝ごとのマナ」を発行される。激しい癌との闘病生活の中に再度「聖書熟読会」を設け「一日一章」を執筆された。

「イスラエルの民が 40 年間、荒野の旅をした時、朝毎に天からのマナが降ったように、私どもの魂のためにも毎日、霊の糧を頂くことが必要です。聖徒たちが如何に聖言を慕い、これにより生かされ、力づけられ、慰められ、望みを与えられ、行くべき道を示されたかが分かります。新年には、元旦より聖書を読むことを始めましょう。毎日欠かさずに、あらゆる困難や妨げを除いて実行しましょう。先ず聖書を開き、読む前に祈ってください。祈って読む時に、お互い愚かな者にも聖言の深い意味を悟らせてくださいます。一章全体を 3 度ほど繰り返し通読しましょう。聖書を読むことの味が分かって、読むことが楽しみとなってきます。」（「朝ごとのマナ」の序文より）。